

第3回板橋区ボランティア活動推進協議会 要点記録

会議名	第3回板橋区ボランティア活動推進協議会
開催日時	令和4年11月22日(火)午後2時30分から午後4時30分まで
開催場所	いたばし総合ボランティアセンター 第4ボランティア・NPO ルーム
出席者	<p>[委員]18人(敬称略)</p> <p>佐藤陽(会長)、鈴木織恵、長澤重隆、松村良子、田口晋、石川隆彦、関根正孝、沼和子、藤田保代、矢野由加、大塚トモ子、馬場充好、平野江里子、鈴木比呂子、増田百合、河毛哲郎、前田康夫、林栄喜(欠席:1人)</p> <p>[オブザーバー]</p> <p>いたばし総合ボランティアセンター所長・副所長</p> <p>[事務局]</p> <p>町田地域振興課長、地域振興課地域振興係職員</p>
会議の公開(傍聴)	公開
傍聴者数	4人
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 前回(第2回協議会)の振り返り・第3回協議会概要 3 第1回専門部会の検討結果及び意見聴取 4 運営方針についての検討 5 第2回専門部会への下命 6 全体を通しての意見聴取 7 閉会
配付資料	<p>資料3-1 第3回ボランティア活動推進協議会 検討の進め方</p> <p>資料3-2 第1回ボランティア活動推進協議会 専門部会検討結果</p> <p>資料3-3 あり方検討会からの提言</p> <p>資料3-4 課題ヒアリングシート キーワード分類</p> <p>資料3-5 課題解決案(学識経験者意見)</p> <p>資料3-6 ボランティアセンターの現状と課題</p> <p>資料3-7 第1回専門部会 キーワード分類 盛り込み案</p> <p>資料3-8 プラットフォームについて</p> <p>資料3-9 センター運営方針</p> <p>資料3-10 第1回板橋区ボランティア活動推進協議会専門部会 要点記録</p> <p>資料3-11 第2回板橋区ボランティア活動推進協議会 要点記録</p>
事務局	<p>1 開会</p> <p>皆さん、定刻になりましたので、ただいまから第3回ボランティア活動推進協議会を開催させていただきます。またご案内いただきますが、会議録を作成する関係から、議事の内容を録音させていただいておりますので、どうぞご了承願います。</p> <p>またお願いでございます。ご発言の際には、録音の関係上、マイクをお持ちになり、ご発言をお願い申し上げます。本日は、欠席の連絡を、小池委員よりいただいております。オンライン参加ということで、鈴木会長代理はオンラインにて参加をしております。加えまして、4名の方が傍聴希望されてございます。</p> <p>本日は、19人中18名の委員が参加されており、過半数を満たしておりますので、本</p>

協議会は正式に成立しているということでございます。

配付いたしました資料の確認をお願いいたします。あわせてご説明させていただきます。資料確認です。

- 資料3-1 第3回ボランティア活動推進協議会 検討の進め方
- 資料3-2 第1回ボランティア活動推進協議会 専門部会検討結果
- 資料3-3 あり方検討会からの提言
- 資料3-4 課題ヒアリングシート キーワード分類
- 資料3-5 課題解決案（学識経験者意見）
- 資料3-6 ボランティアセンターの現状と課題
- 資料3-7 第1回専門部会 キーワード分類 盛り込み案
- 資料3-8 プラットフォームについて
- 資料3-9 センター運営方針
- 資料3-10 第1回板橋区ボランティア活動推進協議会専門部会 要点記録
- 資料3-11 第2回板橋区ボランティア活動推進協議会 要点記録

皆様、資料の不足はありませんでしょうか。

ありがとうございます。

またあわせまして、2回目の資料も机上にご用意くださるとありがたいです。それでは、議題に入りまして、佐藤会長に議事運営をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

会長

皆さんこんにちは。

それではまず次第の方に沿って進めさせていただきますが、前回のときに、時間が十分とり切れなかったというところで、いろいろお話をしたいこととあった委員の方もいらっしゃると思いますので、本日議題の6番目のところ、全体を通して意見聴取という時間を設けていますので、皆さんの方から、少しお話をさせて欲しいというところがありましたら、その場でお話をさせていただければというふうに思います。

それでは議題の2、前回の振り返り、そして第3回協議会の概要というところになります。

まずは事務局の方から説明の方をお願いしたいと思います。

事務局

2 前回(第2回協議会)の振り返り・第3回協議会概要

(事務局から資料3-1 1及び3-1について説明)

会長

はい、ありがとうございます。

それでは今事務局のほうから説明いただきましたので、次第の3、第1回専門部会の検討結果報告及び意見聴取というところに入って参りますが、改めて先ほど報告のところでも専門部会の確認のこと、委員指名についてというところでもう一度改めて確認をしておきたいと思いますが、これは第1回目するときにも確認をさせていただいていますが、委員の選定につきましては、板橋区のボランティア活動推進協議会運営要綱第9条第2項によって、協議会の会長が指名するということになって、本会議、本協議会の中で、確認をしてきたところ です。

そしてその委員の各専門分野の知見や経歴でこれまでのいたばし総合ボランティアセンターとの関わり方等あり方検討会、委員会の関係ですとかそうした情報をもとにしながら、委員指名に至らせていただきました。

特に今回、それぞれ9名の専門部会委員の方に、もうすでに会議も行っていたり、後程ご報告いただきますが、部会の皆様には、様々なご負担をかけてしまっているところあると思いますが、その結果について協議会のところでご報告をいただきながら、そこをまた全体の委員の皆様からご意見をいただき、ブラッシュアップをしながら議事を進めていければというふうに思っています。

ですので、専門部会のところで話された内容について、また皆さんの方からもご意

事務局	<p>見いただき、全体のこの協議会のこういう事項を積み重ねて、ボランティア活動推進に生かしていただくというところで進めさせていただければと思っております。</p> <p>それでは、まず、専門部会から報告ご説明いただく前に、概要について事務局のほうから説明をいただいでよろしいでしょうか。</p> <p>3 第1回専門部会の検討結果及び意見聴取 (事務局から第1回協議会要点記録である資料3-10を用いて説明)</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは引き続きまして専門部会、検討結果について、専門部会の会長をしてきていただきました長澤委員から、報告をいただきたいと思えます。よろしく願いいたします。</p>
部会長	<p>(専門部会の検討結果について資料3-2、3、4、5、6、7を用いて説明)</p>
会長	<p>(プラットフォームについての説明抜粋)</p> <p>ネットワークという言い方ではなく、プラットフォームとしているのは、ネットワークという横繋がりを創っていくところで、お互いに協力し合うということでネットワークが重視されるが、ボランティアの活動などは、団体機関等が対等な関係の中でそれぞれの目的を達成するために、取り組まれていると思う。そうしたことを、それぞれが行いながら横繋がりで出来ることを支え合っていくという面もある。</p> <p>それをそれだけにするのではなく、もう少し進化させていく。お互いに持っているものを出し合って、その中から生まれるプラスアルファの機能を生かしていけるようにする。そういう発想になると、単にネットワークではなくて、プラットフォームとして、自分たちが持っている資源を生かし、なおかつ協力をし合って、新たなニーズに対応していくような変化をしている。</p> <p>もともとの土台は変わらない場合もあるし、それを進化して、別のものを生み出していくことも起こり得る。常に進化が可能とするようなものなので、従来のネットワークという横繋がりで変わらないというものではなく、それが新たに重なり合いながら新たなものを生み出していくっていうところで、進化発展していく段階的に発展していく、そういうトライをするので、プラットフォームという言葉で伝えている。</p> <p>プラットフォームというのは組織体であるというよりは、空間における仕組みというようなものである。</p> <p>従来の組織とは異なって、例えば町内会や自治会関係は、地縁的な団体と言われている。NPOやボランティア団体のようなものは、機能的な団体であり目的に合わせて地域関係なく集まったりする。そうしたものが連携して、共通の目的を遂行する。</p> <p>協議会で考えるところでは将来像や基本理念を、みんなですべて共有できる、各団体と集えるかということが必要になるが、その中には、町内会や自治会というような地縁の組織、その他のいろいろな地縁の組織や、センターに構成されているような団体の方たちで、一緒にやれる方たちはそこに含まれながら、その目的を遂行していく上で、柔軟に対応していける、他の職種などとも対等に関わっていく。そうした中で、いろいろな活動をそれぞれの団体が協力し合いながら創っていく中で、新たな求めが出てくると思う。既存のグループでは担えてないものがあれば、その方たちと協力をして、新たなそうしたものに携わっていける団体を創っていくとか、少し分解をしていくとか、機能的に出来るようにする、そういった要素が、このプラットフォームにはあるととらえている。</p> <p>そのためには、コーディネート機能が重要になるため、センターの運営に関わっているボランティアコーディネーターのような役割が大事になる。コーディネーターには、コーディネート能力と、プラスマネジメント能力が必要になる。丁寧にやっ</p>

方は、その人と人、人と資源の調整をしながら、その関係が円滑に進むような、環境だとか人との関係とかのマネジメントを少し見通しながら関わっているというところがある。

また、例えばボランティアセンターの運営も、社会福祉協議会が、中間支援組織として担いながら、ある程度のプラットフォーム的な機能が果たされている側面があると思う。そういった今ある要素をより豊かにして、今は社協が事務局運営しているが、始まりは行政も支えながら、NPOと区民と社協のボラセンで、四者運営をしているような、協議的な機能・対等な関係の中で、それらを促進するというところは、プラットフォームを進めていく基盤的な要素がすでにあるところだと思っている。そのプラットフォーム的なものをのばすことによって、ここまでやられてきたものを、より発展的に展開させる。ちょうど区は、SDGsの宣言もされているので、どう、いろいろな人たちの問題を取りこぼさないで、継続的な社会を創っていくのか、板橋というものにしていくのかという発想と、センターをそういうプラットフォーム機能を持たせて、実践をしていくところでは、整合性がとれる。

ただ、そのときに、センターを拠点とするだけでは、板橋区広いから、地域のニーズはまた違う。そういう意味ではボランティアニーズも様々だと考えられるため、全区的な取り組みを進めるセンターと、上板橋に今ブランチ的な機能を持っているところが一つあるが、そこを、この区をどういう圏域で見ると、委員方は生活実感を持たれているし、私からすると概ね中学校区ぐらいが一つのくくりとして見られやすいが、やっぱり地域ニーズは様々だと思っているため、そのニーズに合わせた取り組みを進める。そうすると、地域の中から見えてきたものを全区的なところでまたボトムアップしていく場合もあるし、逆にセンターから発信して、ブランチで取り組んでもらうこともあるだろうし、それぞれがプラットフォーム機能みたいなものを持っていくと、いろんな隙間なくいろんな取り組みが生まれてくるため、そうするとSDGsが目指す、区としての方針を体現していくということにも繋がる、区の全体方針ともつなげていくことが可能になるのではないかと思う。

委員

(委員意見抜粋)

- ・ハード面ではなく、ソフト面なのではないか、一方では SNS などを利用してネットワークを広げていく、方や人と人とのつながりが大事、集まる場所や顔の見える場が必要なのではないか。
- ・ボランティアをやって得た達成感によって他の人も幸せになるような要素もあるのではないか。
- ・「多世代に価値観提供」「顔の見える人と人とのつながり」「未来にはぐくむ」「豊か」といった表現がどういう意味なのか説明してほしい。
- ・「SNS の利用」を情報として発信していくことも必要だが、SNS を利用してもらうためにどんな手法を使うといいのかを先に考えるべきなのではないか。
- ・若い世代にボランティアに参加してもらうための第1歩としては、ボランティアに関してハードルを下げることをしないと、ボランティア活動に躊躇する。みなさんの活動が素晴らしすぎて、自分はとても入れないという環境にならないようにすることが必要なのではないか。

4 運営方針についての検討

会長

それでは、運営方針についての検討というところで、お話を進めていきたいと思いますので、まず事務局の方からご説明をお願いいたします。

事務局

(事務局から資料3-9 (1ページ・2ページ) について説明)

会長

このセンター運営方針のところで、今説明をしていただきましたが、今の確認のどこ

	<p>ろで何かご質問等ございます。 それはよろしいでしょうか。</p> <p>(委員から質問なし)</p>
会長	<p>まず1のあり方検討会提言の運営方針についてはよろしいでしょうか。 ありがとうございます。 それでは3ページの設置主体とか、将来的な運営について、本設置運営支援について、ご説明の方、事務局のほうからお願いします。</p>
事務局	<p>(事務局から資料3-9(3ページ)について説明)</p>
会長	<p>はい、ありがとうございます。 今設置運営主体についてというところで、事務局のほうから説明いただきました。 新たなビジョンを策定するための検討する点として今確認をしていただきました。 こちらについて委員の皆さんの方からご意見等ありましたら、ご発言をお願いいたします。</p>
センター所長	<p>(資料3-9(3ページ)について補足説明) 平成18年から平成22年までは、板橋区社会福祉協議会が、協働NPO法人と一緒にこのボランティアセンターを運営しておりました。 そして、平成23年から30年度まで、8年間ですれ一つのNPO法人が、このボランティアセンターの事務局を担っていたんですが、令和元年度から再び社会福祉協議会が一者プロポーザルで選任をしていただきまして、運営をしているところでございます。この部分になるんですけども、四者協働という部分で、担ってきているところもあります。 その現状を踏まえた上で、この四者協働の部分について、今日お渡しした、資料の3-9の3ページのところ、①の現状の四者というところについても、ボランティアセンター現場としてですね、非常に課題を感じているところでございます。 従前から、NPO法人や、ボランティアグループ以外にも、幅広く協働事業なども行っております。 時代の変遷の中でこの四者協働に名を連ねる、区民、NPO、社協、板橋区以外の多様な主体が、区内のボランティア市民活動に参画しているのが現状です。 市民活動の法人化というのは、NPO法人だけではなく、多様な方法が選択できるようになりましたので、その活動が時代とともに変容し、進化しているものと思っております。NPOやボランティアグループだけを念頭に置く限定的な関わりから、概念が変わってきているのではないのでしょうか。 この四者にとらわれない運営の見直しが必要ではないかというふうに考えております。</p>
会長	<p>ありがとうございます。 今皆さん、検討いただく部分で、ボランティアセンター事務局の方から補足的な説明をしていただいております。いかがでしょうか。その設置主体上主体というところで、皆様の方から、今の補足の説明等も含めて、ご意見ありましたらお願いいたします。</p>
委員	<p>(委員意見抜粋) ・18年間設置に至っていなかった理由が分かれば、その原因がわかれば自ずとその点どうすべきかわかるのではないか。 ・現状の四者で何が不都合なのかを挙げて、それは許容できるものなのか、排除すべ</p>

	<p>きものなのかを挙げてもらいそれを確認して、その結果、やはりボランティア・NPOによる自主的な活動が必要だよねという話になるのではないかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状に合わせた柔軟な対応をしていくためには、金銭的な面も必要だと思うが、区が委託しているものの他に何かファンドレイジング等することは可能なかな。 ・四者協働を考えるにあたり、地元企業等が入りやすいような仕組みになったらいいのではないかな。 ・そもそもなぜ協働設置になったのか、一つの組織を多くの人でやっていくのは難しいことなので、協働設置しなくてはいけないのではないかな。それを協議する必要はある。 ・板橋区以外に運営をうまく切り替えてやっている他区市もあると思うので、うまく切り替えてやっている団体の意見等も確認したらいいのではないかな。
<p>会長</p>	<p>それでは、もう一つ、3ボランティアセンターからの課題というところがありますから、それについて報告いただいでよろしいですか。</p>
<p>センター所長</p>	<p>(資料3-9(4ページ)について補足説明)</p> <p>先ほどのお話から附随するところになります。ボランティアセンターの課題、ボラセンの運営上の主な課題についてということで、これも四者協働に関わる部分ではあるんです。</p> <p>(2)の役員会についてというものになります。1ページに図がございました。役員会、運営委員会、その下に事務局がある形になっております。</p> <p>この役員会についてですね、実際ですね、区の委託事業という形で、私ども事務局が運営を行っていながらですね、運営方針の決定や、諮問機関は役員会というふうに実は規定をしております。</p> <p>区と調整をして、こういった方針で決めていきますというようなこともですね、役員会自体の位置付けが少し、不明瞭不明確になっているのではないかなというふうに、この委託を受けた当初から、実は感じていたところでございます。</p> <p>NPO法人や社会福祉法人のように、この役員会自体の法的な責任はございません。</p> <p>また、役員会とは別にですね先ほどの図にもあったように、運営委員会というものを年6回、開催しております。</p> <p>こちらのほうで事業展開の方法や運営方針についても同じく協議をしております。</p> <p>そういったところで、二重になっている部分もありますし、そしてこの四者協働という部分に関わるんですが、運営委員会では、本当に多様な組織団体から13、14名の公募委員も含めて協議をしてこのセンターの運営方針を決めておりますので、役員会の位置付けについても、この先ほどの部分等含めてですね、ぜひ協議をしていきたいというふうに思っています。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>今、ボランティアセンターの課題ということで、説明をいただきました。</p> <p>こちらについても、どうですか皆さんの方からご意見等、或いはこうした問題への対処案等ございますか。</p>
<p>委員</p>	<p>(委員意見抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案主体と承認主体が一緒というのは企業としては困難だが、会議をして合意形成が出来れば、分ける必要はないのではないかな。
<p>事務局</p>	<p>(事務局の見解)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案主体と意思決定主体が別途であることが区としては、必要だと思っているが、課題として、提起されているため、改めて整理していきたい。

<p>会長</p>	<p>5 第2回専門部会への下命</p> <p>お時間もきましたので、第2回専門部会への下命ということで確認をしていきたいと思ひます。そしてもうすでに今やりながら専門部会の方ということもお伝えをさせていただきますましたが、将来像・基本理念、これについても改めてもう一度、修正というより、意見が出たところを踏まえて再考をいただく。特にやはり区民・多くの人たちに理解を得るようなものにしていくところを検討してください。</p> <p>あと運営方針についても、再考していただくということ。そして、運営方針・設置主体・運営主体について、これらについても再考いただき、ボランティアセンターからの課題解決に向けては、解決に向けて、もう一度再検討していただくということで、皆様方の先ほどの意見を踏まえていただきながら、検討いただくところをお願いしたいと思ひます。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>(委員からの異議なし)</p>
<p>会長</p>	<p>6 全体を通しての意見聴取</p> <p>では、最後に申し上げた6全体を通しての意見聴取というところで前回踏まえて、他にご意見等ございましたら挙手をお願いしたいと思ひますが、いかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>(委員意見抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラットフォーム化するというと、「つながりから何かを生み出すというかたちになること」を基本理念に組み込んでもらえるといいのではないかつながりの創出の部分について、どこまでボランティアセンターで関わっていくのか。創出から自立の流れを作っていないといけない。その考えをひとつ構想の中に入れていただけないか。 ・今後については、予算的なものや人材的な部分について考え、自立的な展望を考える必要があるのではないか。
<p>会長</p>	<p>7 閉会</p> <p>はい、ありがとうございました。</p> <p>では最後に事務局のほうから事務連絡をさせていただきます。</p>
<p>事務局</p>	<p>次回、第4回ボランティア活動推進協議会ですが、年を明けまして、1月31日の火曜日14時から開催を予定しております。</p> <p>欠席されるもしくはオンラインで参加したいという方がいらっしゃいましたら、事務局までご連絡の方をお願いいたします。また第2回の専門部会をですね、12月21日の水曜日午後2時から、板橋区役所の会議室にて開催いたしますので、部会ご参加の方、よろしくお願ひいたします。また、協議会委員の中で、こちらの部会の傍聴をしたいというご希望の方がいらっしゃいましたら、あわせて事務局の方までご連絡をお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>皆さん貴重なお時間大分遅くなってしまいまして、申し訳ありません。ありがとうございました。</p> <p>ぜひ、次回のときにまた確認をして、皆さんにご説明いただければと思ひます。どうも、今日はありがとうございました。</p>
<p>所管課</p>	<p>区民文化部地域振興課 地域振興係 (電話 3579—2163)</p>